

江戸川大学国立公園研究所から

執筆担当・吉永明弘

はじめに

かつて江戸川大学で教鞭をとられていた故木原啓吉先生は、戦後日本の自然保護と文化財保護の歴史を語る上で、なくてはならない人物だ。今では、自然環境や文化財はじめ歴史的環境を守るということが当たり前のこととなり、法律や制度も整えられているが、木原先生はその流れをつくった人の一人といえることができる。

江戸川大学国立公園研究所では、このほど木原先生の遺された蔵書や資料を整理して「木原文庫」と命名し、保存・活用することになった。実際の整理作業に従事したのは、非常勤職員の道家慶子さん、学科卒業生の川辺太郎さん、および当時の吉永ゼミの学生たちだ。

木原啓吉先生の
プロフィール

木原先生は一九三一年に鹿児島に生まれた。旧制第七高等学校（七高）から、東京大学法学部政治学科に進学し、卒業後、朝日新聞社に就職する。最初に配属された盛岡支社時代に小繋事件に関わったことが木原先生を環境問題への献身へと導いた。朝日新聞社時代は環境行政、公害、自然保護の問題に携わり、日本にナショナル・トラスト運動やアメニティの概念を紹介した。朝日新聞社を早期退職し、千葉大学、江戸川大学の教授を歴任。江戸川大学では、日本の大学では稀な「ナショナル・トラスト論」という科目をつくられた。また木原先生は、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会や全国歴史的風土保存連盟

などに関わり、長い間環境保護運動に尽力してこられたが、二〇一四年に逝去された。

木原先生は環境問題に関する論文・書籍を多数著し、また数々の審議会委員として公務をされ、さまざまな環境団体とかかわりをもってきたため、幅広いジャンルにわたる書籍・資料を所蔵していた。それらは木原先生のご自宅から江戸川大学に運ばれたが、その量は段ボール箱何箱にもわたった。それらを以下のように分類した。

【書籍】

- (1) 木原先生が執筆されたもの
- (2) 環境文化
- (3) 森林・山林・地域文化・まち
- (4) 地域史・環境史
- (5) 文化財・芸術・遺産
- (6) ナショナル・トラスト
- (7) 市民運動・地域の環境問題・コミニティ・まちづくり
- (8) 都市計画・建築
- (9) 公害
- (10) 環境問題一般
- (11) 里山・風景・生態系・自然保護
- (12) 文化一般（歴史・文学等）

【資料】

- (1) 木原先生の論文・記事（ナショナル・トラスト、アメニティ、歴史的環境、環境全般）
- (2) 木原先生の手書きのメモ・ノート・原稿
- (3) ナショナル・トラスト
- (4) アメニティ
- (5) 環境行政
- (6) 公害
- (7) 自然保護
- (8) 世界自然遺産
- (9) 公園・森林・林業
- (10) 文化財保護法関連
- (11) 伝統的建造物群保存地区・町並み・歴史的環境
- (12) 都市・まちづくり
- (13) 景観・景観法・都市景観
- (14) 世界文化遺産
- (15) 海外の文化財保護（ICOMOSなど）
- (16) 土地問題
- (17) 住民参加・公益法人改革
- (18) 小繋事件
- (19) 入浜権
- (20) 国内の各地に関するもの（九州から北海道まで）
- (21) 海外に関するもの（アメリカ、イギリス、アジア、その他）
- (22) 科学研究費に関するもの

(23) 地図

【冊子】

(1) 都市・文化財・町並みに関するもの

(2) 環境行政・自然保護に関するもの

(3) シンポジウム資料や報告書等

こうして見ると、木原先生が環境に関する幅広いトピックに携わっていたことが分かる。

興味深い個人資料

具体的にどのような本や資料があるのかについては、国立公園研究所のHP (https://www.edogawa-u.ac.jp/facility/park_research/) に掲載されているリストを参照してほしい。多くのものは市販されていたり、シンポジウムで配布されたりしたもので、ここでは解説を加えない。むしろ木原文庫ならではの資料をいくつか紹介する。

(1) 新聞スクラップブック (写真1)

朝日新聞社に入社後、盛岡支社に配属され、そこで関わった小繋事件の記事がスクラップブックのスタートに貼られている。木原文

庫に残されている

二十冊近いスクラ

ップブックを見る

と、公害、

アセス、

農薬、鳥

獣保護、環境基本法、環境庁、町

並みなど関わりのある記事が所狭

しと貼られている。長年にわたって自宅に収められており、スクラ

ップブックをあけると赤茶けた記事とともに特有の匂いがして、年

月の流れを感じる。

(2) 七高時代・東大時代のノート (写真2)

木原先生が旧制

第七高等

学校(七

高) 時から

東大法

学部時代

に使って

いたノー

ト。哲学や倫理、政治史など二十

数冊が残されている。中を開くと、

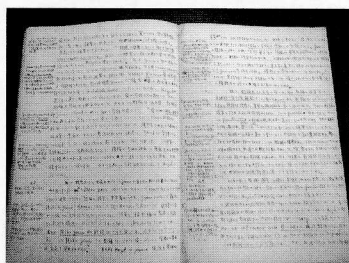


写真2 七高・東大時代のノート



写真1 スクラップブック

びつしりと細くて丁寧な字でページが埋め尽くされている。話し言葉で書き記されている部分も見られ、授業中に先生が話したことをすべて書き留めていたのではないかと想像する。

(3) 手書き資料 (写真3)

木原文

庫には記

者時代以

降の手書

きのメモ

や原稿が

残ってい

る。高校

や大学時

代の字と

うってか

わかって

、新聞記

者時代に

培われた

速書きの

文字。メ

モに至っ

ては、ほ

とんど読

むことが

困難だが

、これを

基に相手

に説明をし

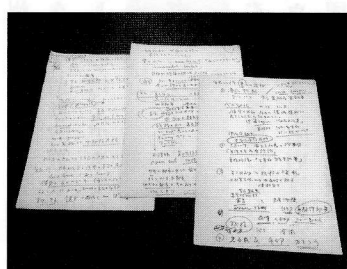


写真3 自筆メモ

谷幸夫『空地(くうち)の思想』(北斗出版)という本である。目次を見て内容をばらばらと眺めたところ、これは読むべき本だと思った。一九七九年刊行で現在は絶版だが、ネットから古本で購入してきちんと読んだところ、都市のなかの自然を考える上で示唆に富み、また現在でも通用する指摘を数多く行っている名著だった。その後書いた拙論「都市に「緑地」はなぜ必要か——「市街化調整区域」を真面目に考える」(<https://synods.jp/society/20444>) のなかでも引用した。このように、木原文庫には「掘り出し物」が含まれている。国立公園研究所のリストを参照し、閲覧・貸借を希望する場合には国立公園研究所まで一報いただきたい。

*本稿執筆にあたっては道家慶子さんに協力をいただいた。道家さんに感謝したい。

おわりに

最後に、私自身が作業の中で木原文庫の恩恵を受けたことを記しておきたい。整理をしているときに、一冊の本が目にとまった。大

吉永 明弘 ● よしなが あきひろ
千葉大学大学院社会文化科学研究科修士(学術)。江戸川大学社会学部現代社会学科准教授を経て、現在は法政大学人間環境学部教授。専門は環境倫理学。